

日本未来記 222号

22 思い川 幻 幻 内山登美子

私は黒川と呼ばれる川

名付けたのは人間にちがいないがた

私が生まれたのは水の

人間がこの世に生まれる以前の 遙か昔のこ

と

私は幼ない川だった

荒ぶる足尾山地から一滴の水すじをつけて

東へ

他の幾すじものきようだいと同じように

山塊の斜面を一気に駆けおり

横転し 飛び散り 壊れ 集り 時に激しく

己を流した

そうして いった頃からか

幾すじその川のなかから

あなたの 音だけを聴くようになっていた

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

61